

木工デザインのクラシカル・エレメント (2)

— ダブル・バラスター脚のウィンザー・スタンド —

Classical Elements in Woodwork Design(2)

—A Windsor Stand with Double—Baluster—Turned Legs—

谷 誉志雄

TANI Yoshio

1. はじめに

建築、工芸あるいは家具に見られる古典的な形態エレメントには、植物のかたち由来するデザインがめずらしくない。唐草文様に代表される渦巻曲線や、ろくろ挽きで作った回転形態のデザインでは、植物との直接的な形態アナロジーが自然に発生してきたと考えられる。中国家具にも作例が見られる竹節のかたち (bamboo style) は、アメリカン・ウィンザー家具の挽物デザインとして数多く応用されている。

古くはアッシリアの浮彫に描かれた図柄にまでさかのぼるといわれる回転形態のエレメントにバラスター (baluster) がある [注1]。このかたちは野生ザクロ花のかたち (ギリシャ語で balaustion) を模したデザインといわれる [図1]。つぼみや果実、あるいは雫を連想させる曲面的なふくらみの基部または上端に「節」を配した、古典的な形態エレメントの典型的のひとつである。

広く建築の装飾的な挽物部分として応用されている一方で、バラスターはウィンザー家具を構成する挽物デザインの定番である。ウィンザー・チェアはもとより、テーブルなどの脚に繰り返して現れるこのかたちが、ウィンザー家具のスタイルを象徴しているデザイン要素だといっても過言ではない。アメリカン・ウィンザーは、一般に装飾がシンプルであり、家具の木工構造そのものをストレートかつエレガントに表現する傾向が特徴である。したがって、アメリカン・

ウィンザー・スタイルの呼吸のように息づいているバラスターも、歴史上のいろいろな様式的バラスターがまといつけてきた装飾デザインを洗練させた、最も単純化された古典形態のエッセンスとして見る事ができる。

この研究では、バラスターをふたつ連続させたダブル・バラスターを、アメリカン・ウィンザーの古典作品を参考とした制作を通して検討してみたい。

2. 研究の目的と方法

この研究で制作のモデルとした原作品は、1820年頃ペンシルヴェニア州で作られたカエデ材を使用したキャンドル・スタンドである。この作品は、ジョン・カセイの著書 THE BOOK OF AMERICAN WINDSOR FURNITURE, 1998 で著者自身が描いた計測図面を添えて紹介されている [注2]。研究書等で確認できる、18~19世紀に制作されたアメリカでのウィンザー・チェアの作例写真がおびただしい点数にのぼることを考えると、カセイが取り上げているスタンドは3点しかなく、稀少な作例といえる。とくに、作品のプロポーションによって小テーブルなどとはっきりと区別できるスタンドは、制作の参考としたこの1点のみである。また、エヴァンズの AMERICAN WINDSOR FURNITURE, SPECIALIZED FORMS, 1997では7点のスタンドが紹介されているが、そのうち1点はむしろスツールと思われる構造

的強度が見られる作品である [注 3]。

ウィンザー家具のツールやテーブルに普遍的に見られる 3 本脚と 3 本のストレッチャーを組み合わせて円形のトップを支持する基本的構造パターンがこの作例でも踏襲されている。ダブル・バラスターを細くのぼすように挽いた脚で薄いトップを支えている繊細なプロポーションがデザインの特徴となっている。3 本脚の開きが 95° と直角に近いことも、動きを抑制した静謐さ、上品さを演出する要因となっている。このようなほっそりしたプロポーションでは、重いものを置くには適さず、燭台を乗せるためのスタンドであったと考えられる。

この制作では、カセイの図面を参考として、細くのぼしたダブル・バラスターの加工技術とクラシカル・エレメントとしての造形を検討することを目的とした。原作品ではちぢみ杢のカエデ (tiger grain maple) が使われている。この制作ではローズウッドを使用した。唐木家具に共通するようなローズウッドの色と質感を生かして、やや硬質な作品の雰囲気をついそう強調できると予想した。原作品は高さが約 27.4 インチ (695mm) あるが、その約 70% の寸法で復元することとした。95° の脚の開きと基本的プロポーションは、原作品のパターンを維持している。ディテールについては、制作を進めながらデザインを検討し、調整した。

3. 技術的課題と制作過程

ウィンザー家具のスタンドをチェアやテーブルと区別する基本的な造形的特徴である細く軽快なプロポーションは、同時に特別な技術的課題を呈することになる。脚は、細長くなるほど旋盤成形でのたわみと揺れが発生しやすくなる。また、通常のテーブルと異なり、円形トップが薄く、周縁に返しが付いた皿状の形態 (dish)

になっている。

この制作では、原作品より寸法を縮小している。脚は、長さ 485mm にたいして最も細い部分が約 10.5mm となる。このような形状では、脚を一体として成形するのが困難である。そのため、脚を上下に分割し、ベアリング・レストをもちいてバラスターを挽いて、形状を仕上げた後に結合することとした。上下の中心軸に加工した穴を直径 5mm の真鍮心棒でつないで、エポキシで接着した [図 3, 4]。細い脚へ 2 方向からストレッチャーを接合する必要があるため、段差をつけた直径 8mm のバイパス・ソケットを採用した [図 5]。

原作品では、円形トップを木工旋盤で成形している。この制作では小型のフライス盤を使用し、回転台に 3 枚のローズウッドをはぎあわせた板材を取り付けて成形した [図 6, 7]。中央の平らな部分は周縁の返しより低くへこむ形状だから、鉋で仕上げるのが無理である。鉋刃をスクレーパーとして使い、仕上げ成形をおこなった [図 8]。

ローズウッドの紫がかかった褐色をより深く見せるために全面に無脱色シェラックを塗り、さらに仕上げとして透明シェラックを塗布してある。このスタンドは、2004年4月に木取をし、2006年10月に組立を終了した。

注

- 1) Wikipedia, The Free Encyclopedia
- 2) Kassay, J. : THE BOOK OF AMERICAN WINDSOR FURNITURE, University of Massachusetts Press, 1998
- 3) Evans, N. G. : AMERICAN WINDSOR FURNITURE, SPECIALIZED FORMS, Hudson Hills Press, 1997



図1 (上) 野生ザクロの花 (copyright:cambridge2000.com)

図2 (下) ダブル・バラスト脚のウィンザー・スタンド ローズウッド
高48.6cm トップの径21.7cm 2004~2006年制作

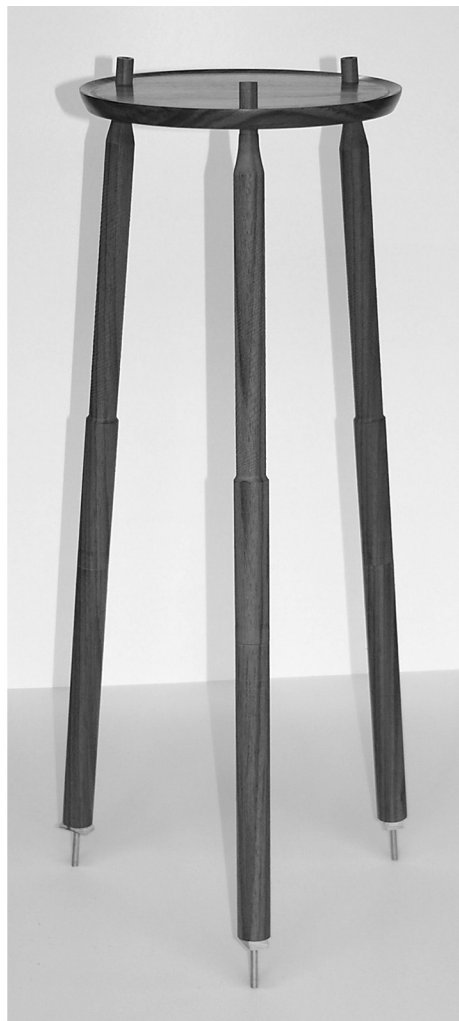


図3・4 (上) 真鍮棒を使った脚上下分割部分の連結
図5 (下) 脚へのバイパス・ソケットの加工



図6 (上) ローズウッドの板3枚をはぎあわせたトップ材

図7 (中) 小型フライス盤を使用した円形トップの成形

図8 (下) スクレーパーを使用したトップ上面ディッシュの仕上げ